

2023ALL JA～東京コンテスト

コロナ禍に翻弄され続けた移動コンテスト生活の復活の狼煙？
今回もまたまたまたまた無駄に長くてすいません^;

JM1LZT 富山俊一

2023年4月。かれこれ3年以上世界を揺るがせたコロナ禍も、ある程度の落ち着きを見せ(たかのようになり)、世界は「ふつ～の生活」に戻りつつありました。

新型ウィルス問題に比べれば、全く取るに足りないたかが無線のコンテスト。しかし、私は「満を持して」この日を待っていました。一昨年Mクラス全国着外、昨年Mクラス全国3位。そんなALL JAコンテストが4月29,30日に例年通り開催されました。

2021,22年と2年続けて千葉県鴨川市からエントリーしましたが、今回はすっかり馴染みの日光半月山からの参戦に。鴨川より標高が高く、6m and down、フィールドデー、全市全郡で使ってみて、半月山の方が「イける」という手応えからの判断でした。個人的テーマである「マルチを増やす」を実現出来るかがキモ。局数的には伸ばせることが想定出来るので、「CQ バカ」を脱却し、しっかりワッチ→呼び回りをどれだけ出来るか。ただ、ひとつ誤算が。過去に利用出来ていたauの携帯電話の接続が実に不安定。いつも通りWi-Fiルーターをレンタルで持参したものの、ちゃんと繋がった時間は5割以下…電話が繋がらないという不便さもさることながら、最早コンテストの必需品とも言えるRBNやtelnetが使えないことに。今回のテーマである「マルチを稼ぐ」にとっては大きなダメージでした。

文句を言っても埒が開かないので、とにかく設営を進めました。今回最も気を使ったのが、他バンドへの干渉。昨年フィールドデーの際、21,28,144MHzに対し50MHzが干渉しまくり大変な思いをしました。

またもや 28MHz エントリーの友人と一緒にするにあたり、事前の準備も、やれるだけやりました。JA1RIZ 久保田さんにお付き合いいただき、再現実験にも事前にトライ。更に久保田さんから同軸トラップの提供までいただきました。本当にありがとうございました。

もちろん、移動運用の場合、全てがケースバイケースであり、事前の再現実験でも、残念ながら状況を再現出来なかつたりしてました。結局は現場合わせ。出来るだけ両バンドのアンテナを離して設置したものの、ドキドキだったのは言うまでもありません。

結果としては、多少 28MHz の方でガサつくものの一応実用範囲に。ただし、メインの 7 エレは OK でしたが、サブの 4 エレは干渉しまくりで、アレコレ手を尽くしましたが結局使用不可。7 エレ一本勝負となりました。道は険しいったらありやしませんσ_^-;

土曜 21 時、戦闘開始です。例によって敢えてバンドエッジは避け、コンテストバンドの真ん中よりちょい下辺りを確保して CQ。いきなりの大パイル。半年ぶりの実戦に戸惑いつつも、狂喜乱舞している自分を確認しながらひたすら QSO を重ねていきます。

200QSO を少し超えたところで予定通り午前 3 時頃からしばし休憩。4 時から 5 分おきに何段もアラームを仕掛け夢の中へ…

4 時。例によって、仕事の場合とは違い、最初のアラームで一発起床(^.^)寝ぼけたアタマでリグに向かいバンド内を一通りワッチ。さすがに聞こえてくる信号はほんの一部の社団局のみ。とはいえ、早朝特有の遠距離伝搬を期待しつつ、アンテナをあっちこっちに向けながら耳をそばだてます。残念ながら新たなマルチ獲得は和歌山だけでしたが、とにかく営業再開です。ここからは 21 時まで、原則ノンストップで突っ走るのみ。気力と体力勝負の総力戦の開始です。

サブの 4 エレが使えないので、7 エレを基本的には南に向けつつも、時折り北や西にも向け、E スポやスキッターの発生に神経を尖らせました。

日曜の10時前後に3方面のマルチを複数獲得。日没ごろには唯一の8エリアもゲット。最終的には、(ちょっとアヤシイのも含まれているので)たぶん23マルチ。一応ALL JAにおける自己最多にはなりました。QSO数も自己最多の400越え。もっとも、QSOが多いということは、呼びにまわりマルチを稼ぐことに割いた時間が短かったということでもあるので、もう一度よお〜く検証してみる必要がありそうです。

ログ締め切り後、すぐに公表されたraw scoreによると、現状無差別級全国3位、Mクラス2位のようなのですが、減点もあるでしょうから、結果発表を待ちたいと思います。



2023 ALL JA@日光の朝の日光 with JO1CRA

今年はカレンダーのいたずらで、ALL JAのわずか3日後、東京コンテストとなりました。移動組のおそらく多くの方と同じように、ALL JAの装備をクルマに積んだままで5月2日の夜を迎え、毎度の都民の森奥多摩周遊道路ゲート前へ。なんとか日付けが変わる直前にポールポジション確保。この椅子取りゲームという名の戦いだけは負けなしですが、肝心のコンテストもそうありたいなと思うことしきりσ^_^;

8時のゲートオープンに備え、すぐ寝ようと思ってましたが、今回もお約束の番狂せが。お休み前のスマホチェックをしていると、Twitterの音声会話機能(会議室機能)に馴染みのコンテスターが出ているのを発見。どうやらALL JAをやり和歌山まで移動した帰りのクルマからとのこと。軽い気持ちで始めた会話でしたが、結局彼が埼玉の自宅に着くまで付き合っしまい、実際に寝たのは3時過ぎ…f_~; まあ、こんなことも含め、コンテストっておもしろすぎます♪

なんとか気合いで7時に目覚めると、私のクルマの後ろに、お約束の同業者の方がお二人ほど。お一人はすっかり馴染みの某有名コンテスター。もう一方はお会いするのは初めてでしたが、コンテストではちよくちよくお世話になっている方でした。ひとしきり無線談義で盛り上がり、三人のエントリーバンドが異なるので、一緒に浅間尾根駐車場から出ることに。28,50,144MHzのアンテナがニョキニョキ。どこの社団局だよ状態に。しかも、コンテスト中にさらにもう一人アンテナ持参の方登場。聞くとデジ簡とのこと、もちろん快諾。結局4局同時運用となり、どこまでも人気者の浅間尾根駐車場なのでした。

朝6時スタート(!)の東京CWと違い、東京コンテストは朝9時始まり。8時のゲートオープン5分後に現着→9時までに設営完了を毎度予定しているわけですが、去年は体調絶不調で1時間半以上のディレイスタート。体調万全の今年こそはと思っていたものの、なぜかびみよ~にしかし確実に作業に手間取り、1st QSOは9:50^~; それなりに移動運用も回を重ね、要領も分かっているはずなのにこのザマ…本当にまだまだまだまだ修行が必要だと痛感させられました。

バンド内のアクティビティは体感としてはやや低調。おそらく天気の良い日曜日、コロナからの解放感を持った方も少なくはなかったのか、健全な市民の方々は無線のコンテストなんかやらず、お出かけか？ 実際、「観光地」奥多摩周遊道路には、クルマとバイクが溢れていました、まあ、浅間尾根駐車場にはアンテナが溢れていたわけですが(。~)

どんな状況だろうと、一旦コンテストが始まってしまえば、あとはひたすらやるだけ。しかし3日前のALL JAの感覚が良くも悪くも残っていて、「呼ばれ足りない感」があるのは致し方なし。CQ出してもすぐ呼ばれなくなるので、せっせと呼びへ。相対的に呼びの頻度が高い東京コンテストの方がALL JAの前だったら、そのノリでALL JAでもうちよつとマルチが稼げたりする？う～んσ^_^;

15時、終戦です。一応去年の自分のスコアは上回れました。特にマルチが増えたのは今年のテーマに合っていたかもしれませんが。もちろん設営の遅さという、ある意味致命的とも言える課題も残ったわけですが^^;

JARLのメジャーコンテストとは異なり、東京コンテストはraw scoreの公表はないので、例によって果報を爆睡しながら待つことにします。



2023 東京コンテスト@浅間尾根駐車場

この後は7月の6m and down、8月のフィールドデーとメジャーイベントが続きます。チーム戦として戦う6m and downも今年で4回目。過去3年、2, 2, 3位とききましたが、今年こそは全国制覇したいものです。昨年3QSO差で2位に甘んじたフィールドデーも然り。漫然と惰性で参加するのではなく、「春の部」の問題点を検証、対策し、「夏の部」に備えたいと思います。

今回もご支援、ご声援いただいたみなさん、本当にありがとうございました。ちょっとでも好い結果報告が出来るよう、これからも無い知恵と体力振り絞り、がんばりたいと思います^^